東北工業大学 同窓会ニュース Vol 2007.SEP

A Graduates' Association News TOHOKU INSTITUTE OF TECHNOLOGY



同窓会 第 23 回定時総会・懇親会

2007 年 10 月 20 日 (土) 東北工業大学香澄町キャンパスで開催!

1 ●ごあいさつ 大学事務局長 伏見 利博氏

東北工業大学広報室からの報告

●特集/恩師からの便り 5

建築学科 鈴谷 二郎氏

●活躍する工大人

6

23

宮城県工高教諭 大出 光一氏

福島県立二本松工高教諭 福田 俊彦氏

長内 幸広氏 青森県工高教諭

(株)サンコーシャ 及川 忠氏

斜里町役場 六本木 万裕氏

本田技研(株) 秋月 俊五氏

マルヨ水産(株) 小山 智之氏

13 ●工大人同窓会・座談会

東北リコー株式会社

19 ■インターンシップ体験記

●支部活動報告 北海道支部

青森県支部

新潟県支部

山形県支部設立準備室

○同窓会事務局からのお知らせ 28

ごあいさつ

新学部・新学科設置の経緯と 大学の近況報告



18歳人口は、平成4年の 205万人をピークとして下が がイン工学科 り続け来年は120万人台に 突入しますが、逆に大学の入 学定員は増え続けており、志 願者数=入学者数の全入時 代を迎えます。また現在、約 7割の学生が3大都市圏の 私立大学に集中し、残りの学 生を地方の私大が獲得しあっ でいるという厳しい状況です。 このような背景が作用し、小

この状況をいかにして乗り 切ればよいのか、学内で大学 改革の必要性が論ぜられ教 授会の下に特務委員会を設置 し、議論を重ねてきました。

幅ですが2年連続して定員割

れが生じてしまいました。

その結果、1. 理工系離れは直視するが、東北工業大学名は変えない。2. 既存の学科定員を調整し新学科に当てることにより総入学定員を維持する。3. 平成20年度ニツ沢キャンパスに新学部・新学科を立ち上げる。4. 既存の学科を改組する。以上の条件を踏まえさらに検討した結果、文系、理系の中間の受験者層をターゲットにした文理融合型の新学部・新学科を設置することにし、学科改組については既存の学科の中で

比較的工学部に縛られないデ ザイン工学科の教員を編成替 えして新学科にシフトすること にしました。

新学科名と入学定員及び 特徴ですが、イメージ的に現 在のデザイン工学科に一番近 い学科が「クリエイティブデザ イン学科 80名 |、地域・住 まい・心身の安全安心をデザ インする「安全安心生活デザ イン学科 80名 | 、経営の 知識に加え、経営の要素であ る人と人・モノ・情報を結びつ ける技術 (コミュニケーション) 力を養成する「経営コミュニ ケーション学科 60名 の3 学科が決定しました。その中 でも特に経営コミュニケーショ ン学科は文系色が強く、今後 本学が文系にもシフトしていけ るかどうかの試金石になると 思っています。さらにこれらを 統合する新学部として「ライフ デザイン学部 を設置するこ とで全学の承認を得ました。

大学としては、4月と6月に キャンパス説明会等を開催し



新学科説明会(会場/仙台・AER)

大学事務局長

伏見 利博(ふしみとしひろ)氏

1943年 福島県相馬市出身

1967年 学校法人東北工業大に採用 2002年 大学事務局次長 2007年 学校法人東北工業大学 理事

同 年 大学事務局長



ましたが、どちらも予想以上の来場者数を確保することができ手ごたえを感じています。また、8月4日にはオープンキャンパスを香澄町キャンパス(新1号館と中庭が完成し、すばらしいキャンパスに生まれ変わりました)で実施しました。



他方、スポットコマーシャル等メディアを活用した広報も導入し、新学部・新学科の成功に向け全学を挙げて努力しております。平成20年度は本学が将来とも一本立ちしていけるかどうかのターニングポイントの年になると思っております。

一方、大学経営は永続性 が求められる機関であり、単



オープンキャンパス (2007年6月30日)

年度だけでなく長いスパンで 安定して学生を確保して行か なくてはなりません。少子化 による厳しい時代にあって、 各方面で活躍している卒業生 は本学にとって大きな財産で あり、今後広い範囲でアドバ イザーとなっていただかなけ ればなりません。そのために は、今まで以上に同窓会との 関係を活発化させて行くこと が重要であると考えておりま すので、今後ともどうぞよろし くお願いいたします。

もうひとつのお知らせは、本学のハシカ事件です。東京の大学ではハシカによる休講が相次ぎテレビ・新聞で報道された時点では、対岸の出来事と高を括っていたところ、突然本学に飛んできました。7人目の感染者が出たところで、6月1日から14日まで2週間の休講(仙台では東北学院大学に次いで2校目)に踏み切りました。

その後も感染者への適切な対応に終始した結果、大事に至らず最終的には10人の感染者で終息しましたが、5月~6月は大学生のハシカという想定外の出来事に振り回された2ヶ月でした。

ごあいさつ

東北工業大学は変貌しています。

東北工業大学広報室からの報告

1964年の創立当初からの 建物で、蜂の巣型の教室で お馴染みの1号館は40年の 時を経て解体され、写真の



ような新1号館になりました。 この建物は、計画当初から法 人、教職員、学生が一体とな りアイディアを出し合って完成 に漕ぎ着けたものです。

この建物の特徴は、近い 将来、高い確率で発生が予 測される宮城県沖地震に対し て安全で堅牢な構造であるこ と、周辺環境に配慮しつつ品 格と活気ある表情を持たせる こと、学生サービス窓口の一元化 (学生サポートオフィス) による利便性の向上などが上げられます。

これらのほかにも建物内部 の各所には様々な工夫が凝ら された空間があり、中庭との 一体感が生まれました。その 意味でこれまでのイメージを 一新して、新しいキャンパス に変わりました。

1987年(昭和62年)以前の卒業生には馴染みのないキャンパス名に二ツ沢キャンパスというのがあります。1985年、校地不足を解消するために二ツ沢の地に校地を取得し、1987年から新キャンパスの造成工事が始まりました。1990年4月には二ツ沢新キャンパスとして1年生を迎え入れました。以来18年間、本



新 1 号館・学生談話室「tohtech ラウンジ」



学のキャンパスは二ツ沢キャンパス、香澄町キャンパスという 名称で親しまれてきました。

これらの名称が 2008 年 4 月から変更されます。二ツ沢キャンパスが「長町キャンパス」に、香澄町キャンパス」にそれぞれ変わります。この変更の狙いは、高校生や父母がキャンパス名を聞いて、どこにあるかすぐ理解できる、本学のスローガン「創造から統合へ〜仙台からの発進」にもあるように、仙台のイメージを伝えることができるなどがあるためです。

前頁で伏見事務局長が述べられているように、本学では 2008 年 4 月から新学部・新学科を設置することを決めました。これらの新しい学科の拠点となるキャンパスが長町キャンパスです。

本学の広報のひとつとして、 今年度から仙台駅前のアオバ ビジョンでの放映を開始しま した。1時間に1回わずか10 秒程度の放映ですが何かの 折にご覧ください。

今年の同窓会総会は10月 20日(土)、大学で行われます。是非お出でいただいて大 学の近況と変貌振りをご覧い ただければと思います。



新学部の広報(アオバビジョン・仙台駅前)



新学部・新学科説明会(会場/仙台 AER)

身辺雜記



建築学科 **鈴谷 二郎** (すずや じろう) 氏

1936年 北海道旭川市出身 1973年 東北大学助手、講師を経て 東北工業大学助教授

た。同県には在学生、卒業

生が多く、工大にとっては他

人事でない災害だろうと思わ

れます。震源地の近くに原発

があったことで、日本について

の報道が少ない海外のメディ

アも取り上げていますが、私

の関心は木造家屋の被害の

現地の地盤が耐震性の小

さい木造住宅に不利に作用し

たことは強震記録からも読み

取れますが、個人住宅の耐

震改修を促進することが現行

制度の下では難しく、また何

処かでこの程度の地震がある

と同じ避難所風景が繰り返さ

れることが想像されます。い

ろいろな様相を持つ自然災害

に対して、被害を軽減する努

力を重ねることが技術者の青

大きさ、多さにありました。

2007年 同 名誉教授

工大を離れて4ヶ月が過ぎようとしています。30年以上の永い間生活の中心が八木山にあったので、退職後の生活がどのようになるか想像するのが難しかったのですが、完全に手を引くことができない仕事が多々あり、以前と同じような生活を送っております。

退職に際しては研究室の卒業生に盛大な祝賀会を催して貰い、久しぶりに会った卒業生との再会が何よりも嬉しく、楽しい思い出となりました。各方面に退職の挨拶を書くのにも時間を要しましたが、いまだに行き届かず多くの郵便物が工大に配達されて総務課にご迷惑をかけている次第です。

この4カ月弱の間私の周辺 は至極平穏で、27年前の研 修生と一日楽しく遊んだこと 以外、特筆すべきことはない と言えますが、周囲を見回す

とメディアを賑わす出 来事が次々と起こり、 話題にことを欠きませ ん。官僚、閣僚の無 様な行いには目を覆い たくなりますが、前の 地震の傷跡がまだ癒 えぬ間にまた新潟県で 大きな地震がありまし



務だろうと思います。

活躍するエ大人

高校教育とデザイン教育



宮城県工業高等学校 インテリア科々長 大出 光一 (おおいでこういち)氏

1956年 栃木県出身 1978年 工業意匠学科卒(8回生) 1980年 宮城県工業高等学校教諭・赴任

現在、私は宮城県工業高 等学校インテリア科の教諭と して忙しい日々を過ごしており ます。

最近、教員の仕事を通じて 感じることは、生徒の対話不 足と自己中心的なモノの考え 方による『思いやる心』の不 足です。しかし、『デザイン教 育』によって、少しではありま すがこれらが解消出来ること を実感しています。

ユニバーサルデザインやバリアフリー、サスティナブルデザインといった学習を通して、弱者に対するモノの見方や障害者に対する視点、また、環境を考え、自分の生き方までも見つめ、生徒の世界観が少しずつ広がっている様子が感じられます。まさに、『デザイン』の偉大さを実感しているところです。

併せて感じるのは、教員の 個性の重要性です。赴任当 初の周囲の先生方は、皆が 個性豊かで、教員であると同

時にその道のエキスパートでもあったように思います。教える側の影響力は生徒にとって多大であり、その後の考え

方までも大きく変えてしまう力 を持っています。

私自身、大学時代の先生方との出会いによって、その後の生き方を大きく変えることになりました。特に1・2年生の頃の森本先生。3・4年生の頃の山下先生と秋岡先生。特に、秋岡先生との出会いは、デザインの考え方を大きく変えるものとなり、人との出会いは、これ程までに影響力を持つものかと実感しております。

教員生活27年。自分なりにデザイン力を高める努力は怠ってはいないつもりです。そうした悪戦苦闘している生き方を生徒に知らせ、生徒への影響力を高めているつもりです。そして、今後もデザイン教育に情熱を傾け、有為なデザイナーを輩出したいと考えております。

終わりに、東北工業大学の 益々の発展を祈念し、結びと いたします。



活躍するエ大人

「教え子」から「後輩」へ



福島県立二本松工高 都市システム科 教諭福田 俊彦 (ふくだとしひこ)氏

1992年

福島県いわき市平生まれ 平工業高等学校土木科出身 土木工学科卒 千葉研究室 福島県立二本松工高勤務 生徒指導副部長

高校時代の野球部顧問(片平崇之氏/通信工学科57年卒・現福島県立塙工業高等学校勤務)の勧めもあり、工大への進学を決意。卒業後は家業(建設業)を継がなければなりませんでしたが、親を説得し教員の道を選択しました。

大学時代は小鹿監督の指導のもと4年間野球部に所属しました。高校時代は怪我が多く不本意な野球生活でしたが、大学時代はベストナインを獲得したり、主将を務めさせていただいたりと、本当に満足いくまで野球をすることができました。また、仙台六大学リーグでのレベルの高い野球を経験したことは、現在の野球指導にもつながっていると思います。

高校野球の監督としては今年で10年目です。前任校では3年連続ベスト8進出しシード校となりました。本校では6年目になりますが、4年前の夏はベスト4進出。現エースはプロが注目する投手に成長しました。

学習面に関しても大学の教 授の手厚い指導のもと幅広い 知識を得ることができました。また、教員免許取得に向けては長期休業中などに部活動の生徒を対象とした講義も開いていただき、教員採用に向け多大なるご支援をいただいたことたいへん感謝しています。

教員となり15年目。進学に関しては工大を自信を持って薦めています。工大へ進学した教え子の中には仙台六大学リーグのベストナインや、教員(現山形電波工業勤務)になった生徒もいます。このように教え子の活躍を耳にするのを、たいへん嬉しく思っています。

毎年、野球部出身者をはじめ1、2名の生徒を工大に進学させております。その「教え子」には、「後輩」として接していますが、全員が工大に進学して良かったと言っています。

これもすべて東北工業大学 の先生方をはじめ関係者のお かげと感謝しています。

これからもたくさんの工大 の後輩ができるように努めて いきたいと思っております。

工大の益々のご発展と、同窓生の皆様のご活躍を心から お祈り申し上げます。

工大で学んだことを 活かして



青森県立青森工業高等学校 教諭 長内 幸広 (おさない ゆきひろ) 氏

1956年 青森市出身

1979 年 建築学科卒業 (10 回生、谷津研究室) 1979 年 高等学校建築科教諭 (光星学院高 等学校、青森県立弘前工業高等学校、青森 県立青森工業高等学校)

工大を卒業後から高校教員 となり来年で30年となりま す。これも、工大で学んだか らこそ現在の自分があると感 謝しております。

現在は青森工業高校に勤務 し、教科は建築、校務分掌は 進路指導を担当しています。

将来は建築の仕事がしたいと思い進んだ工大でしたが、ものづくりならぬ人づくりの仕事に進路変更することになりました。しかし、産業界における工業高校卒業生の果たす役割は重要で、その人材育成は業界にとっても生徒個人にとっても意義ある仕事であると自負しています。

工大卒の進路として教師は 非主流かもしれませんが、工 業高校の中にあってそれは完 全に主流です。

現在の勤務校に9名、青森 県内には20数名の工大卒の 教員が活躍しています。また、 宮城県には相当数がおり、全 国にも多くの卒業生が教員と して活躍しています。今回の 寄稿が、全国で活躍する工大 卒の教員の紹介となれば幸い です。

活躍する工大人というタイ

トルでは厚顔の私でも筆が鈍 りますが、少しだけ自慢をさ せていただきます。

これまで、高校生を対象にした建築設計競技の指導をして20年近くなります。工大で学んだ技術を活かした指導で、他大学主催の競技設計に多くの入賞者を出しています。これも、工大で学んだ賜と深く感謝しています。

今後も建築科の教員として 産業界で活躍できる人材の育 成に努め、社会に貢献するこ とが自分の役割であると思っ ています。また、工業高校か ら工大への進学もその考えに 合致したものであると考えて います。

工大のますますの発展と同窓生のみなさまのご健勝をお 祈りしています。



活躍するエ大人

"雷害対策"一筋



株会社サンコーシャ 営業本部副本部長 執行役員 及川 忠 (おいかわ ただし) 氏 1948 年 宮城県出身 1971 年 東北工業大学通信工学科 卒業 (松谷研究室) 1971 年 現在会社小光社入社 現在に至る

1985 年 株式会社サンコーシャに社名変更

今回の執筆依頼があり、我が歴史を振り返って見ると工大を卒業し既に36年が過ぎてしまった様です。

卒業後、株式会社サンコーシャに入社し恙無く現在に至りますが、弊社は高度情報化社会から"雷"をはじめとする自然災害から通信、電力、鉄道信号施設などの大切な社会のインフラを防護し、安全で快適な暮らしに貢献することを使命とし、観測から防護まで"雷"の総合企業として技術的にも世界のリーデングカンパニーとして77年の歴史を築いております。

高度情報化社会の進展に 伴い、雷害は拡大し、今や一 般家庭でも電話や FAX だけ でなくインターネットなどの情 報通信端末機器が各家庭に 普及しており、それらには電 源、通信ラインが接続されて おり、雷サージの進入経路を 形成しているため機器に被害 を及ぼす原因となっています。 また、これらの電子機器はマ イコン化や IC を多用すること により小型、高機能、省エネ 化も進んでいる反面、耐電圧 が低くなり雷サージに弱いと いう弱点も顕在化しています。

雷は毎日5万発も地球に落ちています。日本の"雷"による被害は年間2,000億円とも言われており、BCM(Business Continuity Management)の観点からも重要な対策が必要と成ってきております。

近年これらの雷害防護装置は JIS 化され、外部避雷、内部避雷対策保護として制定され SPD (Surge Protective Device) などの製品が規格制定されました。

私は東北地域を中心に諸 官庁始め、社会基盤を担う各 企業に営業活動をして参りま したが、3年前から東京本社 に転勤となり、現在は単身生 活を満喫しながらも仕事に勤 しんでいるのが近況です。

社内には工大生が20余名在籍しており、製品開発などの技術部門や、営業部門、海外の工場等生産部門でもそれぞれに活躍しております。

末筆ながら、同窓生皆様の 御活躍と母校の益々の発展 を祈念致します。

世界自然遺産の町の 工大人



斜里町役場 建設部市街地整備推進室 **六本木万裕** (ろっぽんぎかずひろ) 氏

1952 年 北海道斜里郡斜里町出身 1975 年 建築学科卒 (阿部研究室) 北炭建設(株)、日本都市設計(株) を経て 1989 年 斜里町伐場建設部建設課 勤務 2004 年 同 建設部市街地整備推進室 1級建築士・北海道震災建築物応急危険度判 定士・建築基準適合判定資格者

件があり、私は平成16年ま で建築一筋。

斜里小学校が「建築文化」 に掲載された際、工大の阿部 教授に送ったら、下記のよう なハガキが届いたのです。

『(前略) いつから斜里?え、役場で施設設計の計画やってるってぇ!。…君が研究室に忘れていった印鑑、あった、私の机の引き出しの奥に。…このまましまっておきましょう。貴君が来学するまで。(後略)』。これはお笑いですね。

現在私は道路屋さんとなり、道路拡幅事業に伴う道路沿線の補償業務とまちづくり関係のまちなみ協定関係を担当。北海道内100番目の道の駅建設にも携わってきました。

また、今年は人生初の入院 生活も経験。病気になったこ とで健康の有り難味を痛感し ています。同窓の皆さんもご 自愛ください。

公共建築賞にノミネートされた 「斜里町公民館・ゆめホール知床」 (北海道地区 生活施設部門)

学生時代はバレーボールに 専念。4年生の時、全日本大 学選手権大会に出たいと阿 部先生にお話ししたら、(就 職活動や卒業論文と)「どっ ちが大事か!」と言われまし たが、私は当然のように「大 会!」と返答したものです。

結局、就職の採用通知は、 今話題の夕張市に拠点がある 北炭建設のみ。入社後は、作 業服が似合わない現場監督と して道内の産炭地巡りです。

当時の楽しみはススキノの 繁華街での浪費。しかしやが て不景気になり、貯蓄が出来 ないまま東京支店に転勤。瓶 に貯めていた小銭を銀座の銀 行で両替し、それでメンチカ ツ定食(500円)を食べると いう超極貧生活でした。

札幌の設計事務所に転職してから金銭的にはかなり楽になり、結婚もして一安心。ところが、建築士としては半人前なのに、入社早々学校の設計を任されるという、かなり無茶な設計委託業務も経験。

その後、1級建築士資格取得。やがて私は郷里の斜里町 建設課に採用されることに。

当時斜里町には、町制始まって以来の大型公共建築物

活躍するエ大人

あしたの 感動の 「場」を



本田技研工業株式会社 渉外部主幹 **秋月 俊五** (あきづき しゅんご) 氏 東京都出身

1978年 工業意匠学科入学 (12 回生) 1982年 株式会社本田技術研究所入社 1997年 本田技研工業株式会社 2002年から理論

「ねえ、村長… 大野を一 人一芸の村にしませんか?」

1978 年、工業デザイナー 秋岡芳男先生(当時工業意匠 学科長)の呼びかけで始動し た「大野村プロジェクト」は、 地元の食材と木工技術を活用 し、高度経済成長を陰で黙っ て支える岩手の寒村を再創造 する運動でした。

「八木山」はその戦略本部としてクラフトマン、デザイナー、流通、料理研究、自治体など他分野の関係者が全国から集い、互いを尊重しながら議論し、決めたらすぐ実行するというダイナミックな活動の震源地でした。僕ら学生仲間もその高揚した「場」の力に包まれて自由闊達な工大生活をすごしました。

あれから25年が経ちました。 自動車会社に入りデザイン、 新商品や経営企画、海外駐 在など幅広く体験しました。 数年前、大きな展示イベント のプロデュースをしました。 先端技術に「志(おもい)」や 「夢(ゆめ)」を込める優秀な 技術者達とはいえ展示につ いては素人の共同作業。社 内の説得まわりでようやく調 達した資金でつくったクルマの知能化・情報化のあり方を一般の方々に解り易く示す試みの展示は累計入場者6万人以上を記録し、我々のブースは満員のお客様で大成功。仲間と共に創りだした感動でした。

自動車企業にとり世界各地の人々の自由な移動と社会調和の両立は社会責任です。その実現には先端技術開発の継続が必至です。そこにも感動や喜びを創りだし、デザインマインドを発揮する場がたくさんあるはずです。

思えば「八木山」は異なる 人々との共同作業で「志(お もい)」や「夢(ゆめ)」をデ ザインし実現する実践講義の 「場」でした。新しいキャンパ スもあしたの感動を創る「場」 であり続けて欲しいと願って います。



夢から現実へ



マルヨ水産株式会社 製造部水処理担当 小山 智之 (こやま ともゆき) 氏

1982年 青森県八戸市出身 八戸東高卒

01年 環境情報学科入学(1回生) 04年 環境情報学科卒(田中研) マルヨ水産株式会社入社

私は小さい頃から環境問題に興味をもっており、環境情報工学科に一期生として入学しました。そして工大で環境情報工学を学んでからいつからか少しでも地球環境に貢献できるような仕事につきたいと考えるようになっていました。

そこで、教授方が公害防止 管理者資格を取得するための 勉強する場を設けてくださる ことを知り、私もそこに参加し ました。

この害防止管理者資格を 学生時代には取得することが できませんでしたが、入社し た年に、学生時代に勉強して いたことと会社の先輩や上司 の応援の甲斐もあって資格試 験に無事合格することができ ました。

現在はその資格を生かし、 会社の水処理プラントの運転・ 管理、保守・点検などの仕事 をしています。

工大で学んだ環境や情報の知識、化学や物理学の実験での経験などは今でも仕事をしていく上で重要なベースになっています。

この仕事は1つのミスが会 社の社会的信用の低下を招く こと、更に周辺水域の水質汚染につながることから常に水質に気を配っていなければならなく、また水質の向上が目に見えて表れるのでとてもやりがいのある仕事だと感じています。

地球温暖化をはじめ、今 も様々な環境問題が山積みで 日々変化しているこの時代、 模範となるような企業にする ため、これからもさまざまな 技術を身につけ日々精進して いきたいと思っております。

最後になりましたが、工大の皆様方と卒業生の皆様のますますのご活躍を心からお祈り申し上げます。



排水検査を行う小山氏

工大人座談会

求められる人材と能力

目的目標を持って、前向きに話す人。

発想の自由さ、 戦略思考や統合力



■まず、御社のご紹介を。

八重嶋:東北リコーは、来年創業40周年で、現在は記念行事を計画しているところです。

従業員数はおよそ1,360 名、派遣社員 600 名で総勢1,900 名強。その内、工大 OB は 62 名ですが、定年等で退職された方を含めると 68 名です。



八重嶋 征夫氏

東北リコーは 国際的な企業で す。東北でワー ルドワイドにビジ ネスを行ってい る会社は少ない と思います。デ

ジタル孔版印刷機、複合機、パーコードプリンター等の企画、開発、設計、生産、商品化して世界中に出荷していることが特徴的ですが、その中でもデジタル孔版印刷機については、世界中におおよそ 60 万台出荷しています。

東北リコーでは、リコー製品のマルチファンクションプリンター(MFP: デジタル複合機)の白黒の高速機を生産していますが、いずれはこの地で開発設計生産をして、世界中に出荷するため、今まさに開発設計体制を整えているところです。

他に、リコー製品の部品等 も生産しています。製品の生産 では、協力会社約300社に部 品を造っていただいています。

社内では文化体育活動も盛んです。なかでも9人制バレーボールは男女とも強く、特に男子は国体で3連覇(2001~2003年)。当初は、宮城国体(2001年)で日本一が目標でしたので目標達成ということになります。残念ながら4連覇はかないませんでしたが、常に全国ベスト8、東北地区では1位の強豪チームです。その他、スポーツはサッカーや重量挙げも全国レベルで、華道、囲碁、将棋、釣り等の文化活動等福利厚生面でも充実しています。

また、当社は 「子育て支援企 業」として東北 地区初の認定を



受けました。名刺に張ってある 赤いシールがその証です。

■ 子育て支援とは?

八重嶋:簡単に申しますと男性 も子育で休暇がとれる制度で す。申請すればかなり長期間 休むことができます。

高橋郁: 労働基準局主催の講演等で、御社の社員が講師を やられることが多いですね。男 女雇用機会均等しかり、子育 て支援しかり、企業のモデルケースとしてお話を聞く機会が 大変多い企業です。

東北リコー株式会社(宮城県柴田郡柴田町)

<出席者>

八重嶋征夫氏/取締役常務執行役員・技術本部本部長

1968 年通信工学科卒・朴研究室

伊藤 和行氏/画像機器事業本部 第一設計室 設計 2 グループ係長技師 1984 年工業意匠学科卒・山下梨原研究室

上石 晶一氏/技術本部 技術戦略センター 知的財産グループ課長補佐技師

1986 年工業意匠学科卒・吉田研究室 新沼 知明氏/生産事業本部 製品事業部 製品技術室 製品技術 2 グループ係長技師

1995 年電子工学科卒・松村研究室

齋藤 晴貴氏/技術本部技術戦略センター技術開発Mグループ

1999 年電子工学科卒・千葉(二)研究室

<聞き手>

佐藤 明/本学同窓会副会長・宮城県産業技術総合センター副所長(写真/後列右から3人目)

1970 年工業意匠学科卒 1 回生

古賀 秀昭/本学就職部長・環境情報工学科教授(写真/後列右から2人目)

高橋 郁生/本学キャリアサポート課 課長 (写真/後列左端)

菊地 良覺/本学デザイン工学科准教授・1976年工業意匠学科卒6回生(写真/後列右端)

八重嶋:子育て支援の他にも、オールリコーとして「環境ナンバーワン」を目標に、「ごみゼロ運動」も実施しています。社内の食堂で出た廃棄物は全てリサイクルされますし、ロビーの電灯も太陽光を利用した太陽発電を使用しています。もちろん緊急時も自家発電で対応できます。

■ところで、社名のいわれは?

八重嶋: 創設者 の市村清が始め た理研 (理化学 研究所) が開発 した感光紙の事 業と「光学」を組 み合わせて「理

研光学」株式会社が創立され、その頭文字から「リコー」になったと聞いています。昭和初期、リヤカーに感光紙をつんで配達して歩いたそうです。市村清と当時の知事のとの関係で、東北にも生産工場を創り雇用の拡大を図りたいとの考えで「東北リコー」が誕生しました。

佐藤: ISO 取得やデミング賞 (総合品質管理に功績のあった団体等に授与される賞) 受 賞、CSR (Corporate Social Responsibility・企業の社会的 責任) 等、宮城県内でも先駆 の企業ですよね。 **八重嶋**:地道に持続して活動しているだけです。

海外でも高評価を得ている

デジタル複合機 (リコー・イマジオシリーズ)

■社員採用のポイントは?

八重嶋: 前向きかどうかという こと。もうひとつは目的をはっ きり持っていることです。

古賀: 元気があって、やる気が あればそれでいい、という企業 が多いのですが。

八重嶋:基本的にはそうです。 古賀:工大生は東北リコーさん に限らず、素直で定着率がい

いんです。

齋藤: 怖い八重嶋 さんが居るから、 辞めないんです。 (笑)

八重嶋:工大生はフレキシビリティ

を持っています。いわゆる鈍感力がありますね。躊躇して一つ一つに意味付けしないと動かない人が多い。敏感すぎる人はかえって使いにくいんですよ。課題一つ一つに対応していく力が必要なんです。

古賀: 工大でそのような教育を しているわけではありません が、工大生はよくそう言われま す。 工大の伝統なのでしょうか。 八重嶋: 私は工大一期生です ので、大学にすべてが準備され ていたわけではありませんでし た。 無い状態で動けるのが工 大生なのかもしれません。



私の学生時代は工大に何も ありませんでしたので、私達が 柔道部とヨット部を創部。当時、 東北大や学院大の施設や舟を 借りて合宿をしました。

研究室は朴(先正) 研でした。 朴先生は工大に 2 年間しかお らず、我々が卒業するころには 韓国に帰国。八木アンテナを 研究していたためか、帰国して からスパイの疑いをかけられた そうです。

齋藤: 私は東北リコーの工大生 62 人中でも若手の方です。工 大では弓道部の先輩に誘われ て千葉二郎研究室を選びまし て、貴重な体験をさせていただ きました。ある日、弓道部の機 関誌を作るとき、リコーの印刷 機のインクが詰まって動かなく なり困ったことがありまして、な んとかしたいものだと思ってい ました。

八重嶋: 弓道部の創部にも関係したんだよ (笑)。

齋藤: 現在の仕事は、5年先 10年先を見据えた技術開発 を担当しています。ずっと先を 見ていないと開発が追いつきま せんし、ひとつの機能では受け 入れられません。複合化させて やっと価値が生まれる。今の 世の中、そういう意味で開発は 難しくなってきているし、かなり ハイレベルに達しないと課題は 解決できないという感じです。

工大で培われたのは、知識ではなく知恵だと思います。工大生は臨機応変だと思います。なんといっても上司がおもしろい。上から押しつけているように見えて、どこに意味があるか判るように説明をしてくれます。とりわけ社内では八重嶋の存在は大きいですね。

■チーム内での意見交換等は ひんぱんにやるのですか?

八重嶋:技術者はみな開発室で一緒に仕事をしています。与えられた仕事を一生懸命やる人はたくさんいますが、自分の意見を出す人はなかなかいません。 「なんで自分のことしかやらないんだ!」という指摘や意見を持つ、工大生の良さはそこです。

齋藤:「黙ってろ!」と言われたことはありません。言わせてもらえるというのは、ありがたいですよね。先輩方がそういう環境をつくってくれたお陰で、そこで力をもらえます。

八重嶋:でも、しゃべりすぎて 困ることも。誰かに刺されるん じゃないかと心配 (笑)。そこを 分かって発言しないと。

齋藤:30 歳になったので、そろ そろブレーキをかけないと(笑)。



斎藤晴貴氏(左)と八重嶋 征夫氏

■ 現役学生にコメントを。

齋藤:「システムにのまれるな」「アナログ人間たれ」と言いたい。小さな変化を見逃さないことが新しい技術開発には大事じゃないかなと思います。論文に書かれてあるから真実だとか、何も考えないでシステムにのまれてしまう人がいます。そうではなく、まず自分で手を汚して確かめるべきです。

例えばバイクのマフラーや チェーンを変えてみても、何が どう変わったかをしっかり分 かっていれば、工学系で仕事 をする上でいい経験になるはず です。

古賀: 学生時代にアナログを体

験すること、考えることを経験 すべきだね。

齋藤:デジタルが機能しなくなったとき、機器が壊れたときの原因がアナログ部分にあることが多いし、問題を突き詰めるとナノスケールで原因がある場合も。「システムにのまれるな」「アナログ人間たれ」というのは、自分自身の目で納得がいくまで確かめることが必要だという意味です。

上石:リコー特有ですが、原因を突きとめるのに「なぜ?」×3というやり方をします。物事の根幹を知らなければだめだということです。

新沼:「なぜ?なぜ?なぜ?」活動は、今ではTTY(whaT Then whY)という、なぜ?の前に何が起こっているのかを徹底的に追及・把握するための活動に進化しています。

八重嶋:会社では原因がわからないことは許されません。その原因を2年も3年もかかって解析していく。技術だけでなく、プロセス的原因まで解析していくとそうなります。再発防止のためには必要なことです。

問題は TTY に登録されて 製品に反映されます。登録され ていないということは問題なし ということです。

改善事例の社内発表会は年2回、技術シンポジウム年1回あります。成果だけでなく、プロセスも、失敗事例も発表するのですが、最近は品質工学の発表が多いですね。

■新沼さんはいかがですか。

新沼: 私はもの づくり、生産に 携わりたくて入 社しました。当



7名 知明氏

時その希望職種、つまり生産 技術をやりたいと明確に意思 表示したのは私だけだったそう で、無事入社させていただきま した。

現在の仕事は、新製品の立ち上げ、試作から量産までの生産技術、生産準備全般です。問題が起こっても、その問題をひとつひとつつぶしていくのが楽しいですね。

学生時代はいかに大学に行かずに卒業するかばかり考えていました(笑)。大学4年のとき工大OBを頼って、東北リコーに会社訪問。入社試験を受ける人は多いけれど、受ける前に会社に乗り込んでいく学生は、今も少ないのかも。

今日の座談会に工大 OB60 人以上の中から私が選抜され たのは、海外駐在経験者だか らと解釈しています。2000 年 以降よく中国へ出張するように なり、2006 年から中国・深セ ンに1年半ほど駐在し、中国 で生産する新製品の立ち上げ 支援と、深センに新事務所を立 ち上げる仕事をしていました。

深センでは他部品メーカーに 勤める工大 OB と出会ったこと も驚きでしたが、何より語学力 が必要なことを痛感しました。 学生時代、もっと真剣に英語 を勉強しておけばと後悔してい ます。学生時代にはその実感 がなかったので、今の現役の 学生に伝えたいですね。

伊藤: 私は工業意匠学科の山下・梨原研出身で、平成元年入社です。入社後の10年はマルチファンクションプリンターの周辺機器の紙送り設計をし、その後リライタブルプリンター(ペーパーをリサイクルで300回くらい使う)の開発に1年半。続いてリコー本社に2年半在

籍しました。現在の画像機器 設計とは、マルチファンクションプリンターのエンジン定着 設計のことで



伊藤 和行氏

す。こうしてほぼ 20 年。リコー は仕事がやりやすく、居心地が いいですね。

八重嶋: 私が入社したその日に言われたことは「好きなことをやっていい、やりたいことがある人しか採用しない」ということ。その会社の精神はずっと続いています。

リコーに在籍した年数の半 分は東京・大森の設計部勤務。 その商品をもって世界中をデモ して歩きました。

技術開発の苦労は人間関係。技術系、生産系、管理系 それぞれの人間がいて、どこで 利益を生むかという我慢比べ ですね。

東北リコーは東北にあって 国際的な企業です。あらゆる 可能性を持った企業ですから、 現役の学生には、「先輩たちに 続け!」「困難に立ち向かうライ オンであれ!」とアドバイスした いですね。

伊藤: デザイン出身でメカ設計をやっている人はほとんどいません。方向転換しすぎたかなとも思っています。会社に入ってから高校の教科書を見直しましたから。

社会では自分の思い通りに 仕事はできないものですから、 社会に出てからも勉強。でも、 それを我慢してやるしかない。 もし工大の後輩がメカ屋になり たいと言うなら、数学と物理は きちんと勉強したほうがいい。 要は努力次第です。

菊地:結局ば人」。リコーのサー

ビスエンジニアと接してもそれ を感じさせますね。

伊藤:もしかすると、サービスエンジニアの方が、設計よりも機械に詳しいかも。それが開発にフィードバックされて良い製品になります。お客様相談室の情報はデータベースになっていて、全社員が見ることができますから。

■リコー本社と東北リコーの違いは2

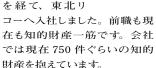
八重嶋:経営面では本社と子 会社という関係はありますが、 本社の力と東北リコーの力を合 わせて商品を出すという関係は 常に変わりません。

リコー本社は年間売上2兆円、東北リコーは7~800億円だから給料は多少違うかも。しかし、利益率が高ければ、給料面でも本社を逆転することも十分あり得ます。

現代は戦略性がどれだけあるかが会社の課題。その面で 工大生には期待しています。どんな会社でもそうですが、自分 のかせぎで自分の給料が決ま ると思わなければ。そのチャン スはあります。

■上石さんは どんな業務?

上石: 工大卒業 後、東京の会社 を経て、東北リ



上石 晶一氏

高橋郁:仙台で知的財産に関わる弁理士は数名ですが、宮城県の出願件数を見ると、現状はほとんど東北リコーさん含め数社頼み。それぐらい東北リコーさんはすごいということ。

佐藤: それが競争力を高めている理由です。大学も戦略として知的財産で競争力を高めなければ。工大も最近になってやっと知的財産戦略の要綱を作り始めたようですが、これからというところです。

上石: 教育として最も遅れているのは情報リテラシー(情報及び情報手段を主体的に選択して活用していくための個人の基礎的な資質)。産学連携を見据えた上で大変重要なことです。

菊池:工大はいままで生産論理 が強すぎました。もう生産だけ ではだめですね。

上石: 今日当社から出席している人は氷山の一角。東北リコーにはもっともっとすごい人材がたくさんいます。

高橋郁:新卒に学力がないので、 企業で勉強させようという記事 が新聞に載っていましたが、企 業と大学の求めるものが変化し てきている。これは社会性かも しれませんね。

八重嶋: 今、企業が求めるものは、院卒は専門的なこと、大卒には発想の自由さです。

佐藤: 企業はどういう人材が欲 しいのか、逆に大学はどういう 人材を送り込んだらいいのか。 技術を良く知った人間と、もう 一方で考え方や統合力を持っ た人材でしょう。

上石: 私は工業意匠学科のディレクターコースで学びましたが、 そこで学んだことがある意味、 統合力です。

佐藤: みなさんは技術の他に、 つなげるとか幅広い意味での 統合力を、東北リコーに入社し てからお持ちになったんだろう なという印象を受けました。

八重嶋:東北人には「しゃべらなくても理解してくれる」という考えがありますが、やはり自分

の意見は人に負けずに言わないといけません。自分の仕事は次代にきっちり残して欲しいですね。

■工学部の他にライフデザイン学部ができるが、どう思われますか?

八重嶋:いいと思います。まさ に実学を教えるわけだから。

今、会社では戦略思考を持てと促しています。戦略思考というのは、目的目標をちゃんと持つことです。そういう能力を育てるプロセスを大学がもっているなら、いいんじゃないか。新しい学部には自分の生き方を決めるプロセスに期待したいですね。

伊藤:戦略があって新学部を 作ったのでしょう?!工業意匠 学科の OB としてすごく期待し ています。

上石: 私も新学部には期待しています。工学部以外の多くのことを学ぶことは、総合的な質の向上につながると思います。新学部が入る二ツ沢キャンパスは学習環境もいいですから。

東北リコーには現在工大の工業意匠学科出身者は5人居ますが、ここ10年入社していないのは残念。新学部の学生には私たちのようなOBに積極的に話を聞きに来て欲しいですね。

齋藤:東北リコーでは、新卒者 にはペアシステムといって、先 輩から実務を学ぶ教育制度が あります。当然、意思疎通のた めに、社内での会話は必須で す。大学には元気な学生や話し ができる学生をたくさん送り出 してほしいです。

■ありがとうございました。

(2007年8月21日取材)

インターンシップを 通じて



デザイン工学科 4 年 田中 淳子 さん インターナショナル工業デザイン(株)

会社の人はそれを見てアドバ

イスをしてくれたり、質問をし

てきたりし、それを参考にアイ

ディアを絞りました。その後、

形を決めていきます。最終日、

考えた製品について社員の

方々の前でプレゼンテーショ

ンをさせていただきました。伝

えたいことをスケッチや言葉

で表現します。デザイナーは

正確に伝えることが大切です。

伝えることの難しさを強く感じ

何より、社員の方々とお酒

を飲みながら「デザイン」につ

いて語ることが出来たことが、

私にとって貴重な経験でした。

デザインに対する考えや思い

を知り、改めて「デザイナーに

なる」と心に決め、このこと

が現在学校で一生懸命取り

組んでいる原動力になってい

ると思います。本当に良い体

ました。

私は3年の夏、インターナショナル工業デザイン株式会社で2週間のインターンシップを体験してきました。

インターナショナル工業デザイン株式会社は主に工業デザイン・企画を多く手がけており、社員数は10名ほどのデザイン事務所です。

活動の動機は、将来デザイン関係の仕事に就きたいと考えていたので、「デザインの現場を知ること」「自分のスケッチ力などがどの程度かを知ること」「今後の学生生活で何をすべきなのかを知ること」などがありました。

私は期間中「女性が使うエステ用品」のデザインを考えました。考えるにあたって市場調査をし、街に出て色々な店を回り流行を知るところから始まります。会社が六本木にあるということで街は最新の

デザインであふれて おり、多くの刺激を うけることが出来ま した。その後、アイ ディアスケッチを出 来るだけ多くだし、 どんどんボードに貼 り付けていきます。



たった2週間の出来事で、

これからも

輝き続けるために



通信工学科4年 **畠中 弘幸**さん (株)アルファシステム

私の人生は目標に向けより一層、輝きだした。
私は由北工業士学に入学が

私は東北工業大学に入学が 決まってから、大学祭実行委 員会での活動を通して仲間で 団結し、1つのことを成し遂 げることの面白さを学び、居 酒屋のアルバイトでは礼儀作 法、接客、お客様の心をつか み、良いサービスを提供する ことの重要さを学びました。

人間力を学ぶ中で、これから約40年は関わることになる仕事。興味本位で飛び込んだ情報通信という業界でしたが、明確な自己表現の方法が見つかりませんでした。そんな中「この状況を打開するには実際にチャレンジする、働いてみることしかない。」そう思いました。

就職課のご好意で株式会 社アルファシステムにて就業 体験をすることが決定しまし た。一番の希望であったシス テムエンジニアの仕事。その 一部である構想から企画書を 作り、デザインしてプログラ ムを組み、架空のお客様にプ レゼンテーションするという 内容でした。 たった2週間でしたが、毎日スーツに着替え出社するだけで私の胸は高鳴り、必死に働くことで仕事の意義、私がどうすることで社会に貢献できるかが明確になりました。

その後も校内の成果発表、学科の後輩へのプレゼンテーションや工大から企業へ向けてのパンフレット、高校生が対象の大学情報誌に取材を受けたり、全国私立大の就職団体主催のパネルディスカッションにパネラーとして出演させていただくなど、様々な機会にて「仕事をすること、自分の将来のビジョンを考えていくこと」の大切さを自分なりに訴えてきました。

就職活動を無事終え来年から社会人となりますが、目標をしっかりと掲げ失敗を繰り返しながらも常に輝きつづけたいものです。

作成したERPプログラム1 (共有フォルダ新規利用者シート)



挑戦したい!



佐藤 好恵さん

3年生になり、自分の将来 のことを考える機会が多くなっ た頃、実際に働くという事に対 して興味を持ち始めました。イ ンターンシップという機会を通 し、社会の厳しさや、実際に 働く人々、生の現場を見てみ たい、挑戦したいと思い、参 加しようと決意しました。

実習先は、株式会社佐藤総 合計画東北事務所で8日間体 験しました。

実習では、実際の施工現場の写真を見せて頂き、資料づくりをしたり、敷地模型や建物の模型等をつくりました。実際にクライアントに見せるという事で、分かりやすいよう、細かいところまで、正確につくるという事に神経を集中させ、製作しました。

今まで学校で課題として出されたものよりも、大規模な建築物を扱うので、模型の大きさに戸惑ったり、作業スピードについていけず、とても苦戦しました。実際に、働いている方々の熱い討論を身近で聞くことで、建物を扱うことに対しての責任感や、妥協を許さないプロ意識が伝わり、次第に自分もそんな技術者になりた

いという意志をもって、精一杯 作業に取り組みました。初め てみる大きな図面や、身近に いる技術者のアドバイスは、私 にとって、とても新鮮で為にな る事ばかりでした。

今までにない経験をすることで、学校とは違った多くの知識を得る事が出来ました。また、普段あまり接することのない年代の方々と意見を交換することで、自分の持っていた世界観も広がったように思います。

8日間という短い期間でしたが、様々な人と触れ合い、そして助けて頂きながら、建築という仕事を経験することが出来ました。働くという事に対して、ほんの少しですが、実感が沸いたような気もします。今回の経験で、自分の新たな一面を見つめなおすこともでき、社会の厳しさだけでなく、楽しさも発見できました。このインターンシップでお世話になった皆様に感謝したいです。ありがとうございました。

将来の自分を 見つけるために



環境情報工学科 4 年 大泉 浩紀 さん

私は3年の夏、2週間にわたり、東京都中野にある㈱サンエツでのインターンシップに参加しました。

株式会社サンエツは、大型 施設の空調設備機器の省エネ ルギー化を図る、制御・管理 システムを設計する企業です。 エネルギーの使いすぎや無駄 を減らすことで、二酸化炭素な どの排出を削減し、地球温暖 化防止に寄与することを目的と して、地球環境問題に取り組 む仕事をしています。



私は将来、世界で活躍できる人間になりたいという大きな夢を持っております。また、この頃から、漠然とではありますが、関東や関西地方のように大企業などが集まり、日本の社会が、めまぐるしく動いているところで働いてみたく、県外の企業に就職したいと考えておりました。そして、私は環

境情報工学科で勉強してきたことを活かし、地球環境保全に関わるような仕事に就きたいと思っていました。それが(株)サンエツでインターンシップに参加した理由でした。

二週間という短い期間では ありましたが、毎朝8時までに 出勤し、正社員と同じような時 間で活動しました。しかし私が 定時で帰った後も、残って仕 事している社員を見て、働くと いうことは楽ではないというこ とを目の当たりにすることが実 感できました。また、環境と言っ てもさまざまなところで関わり があり、多くの企業研究をする 必要があることも認識できまし た。日本の首都、東京の会社 に行くということは、電車や地 下鉄などを利用し、分刻みで 流れている時間の中で仕事を するということで、その中で時 間というものの大切さや、社会 人として生活していくことの難 しさを学びました。

今回のインターンシップを通 し、学校では学ぶことのでき ない貴重な経験をすると同時 に、働くということは生半可な 気持ちで捉えてはいけないとい くことを思い知らされました。

21 22

支部活動報告 海道支部

北海道工大定期戦時に 先生方と支部会員、集う

北海道支部 事務局長

山口 龍彦 (やまぐち たつひこ) 氏 1974年 土木工学部卒 (大沼研) 現 在 札幌北区土木部維持管理課長

昭和49年3月、工大土木 工学科を卒業(4回生)後、 札幌市に奉職して33年が経 過しました。

思い起こせば、大学時代は 入学から卒業まで寮に入って おり、先輩・後輩にも恵まれ、 楽しい4年間を過ごさせてい ただきました。

そのためか、社会人になり、 北海道に居住する土木工学 科卒業生で作る同窓会のお 手伝いをしていたところ、平 成13年に同窓会本部から全 学同窓会の北海道支部の設 立依頼があり、札幌市内に居 住する各学科の卒業生のご 協力をいただき、2年後の平 成15年に無事全学同窓会北 海道支部の設立に漕ぎ着ける ことが出来ました。

支部の活動は現在のところ、2年に一度、北海道工業 大学との定期戦で札幌に同 行して来られる先生方と札幌 市内で交流会を開催している 程度で、北海道在住の同窓 生の方々には大変申し訳なく 思っておりますが、今後もあま り気張らず、楽にやって行こう と思っております。

今年も8月28日から、札幌で北海道工業大との定期戦が行われ、同行された先生方とサッポロビール園で懇親会を開催しました。今年は総勢30名を越える参加者があり、大いに盛り上がり交流を深めることが出来ました。

最後に、定期戦の健闘を祈るとともに、2年後の再会を約束して、お開きとなりました。今回参加できなかった北海道支部の皆さんには、2年後の定期戦の際に参加してくださることを期待しております。



北海道支部 懇親会 (2007.8.28)

【青森県支部】

二世代、三世代の工大人を 目指して

須藤 将仁 (すとう まさひと) 氏 2006年 建築学科卒 (鈴谷研) 現 在 東北工業大学サポートオフィス

平成19年6月3日(日) に東北工業大学後援会主催の 父母懇談会(青森会場)が青 森市観光物産館アスパムにて 開催されました。毎年、この 機会に大学関係者と後援会役 員、そして同窓会との支部連 絡協議会を企画しており、今 年も父母懇談会前日の6月2 日(土)に開催されました。 後援会役員、同窓会支部役員、 青森県在住同窓生、本学の同 窓生教職員の出席者全員の自 己紹介をした後、後援会・大 学・同窓会の近況報告があり、 意見交換が行われました。

今回出席された青森県在住 同窓生の方の中には、県内私 立高校の校長先生や、県立 高校の進路指導を担当されて いる先生がおり、現在の高校 生の現状について話されまし た。理数離れが騒がれている 中、どのように工学系に目を 向けてもらえるかが課題であ るとのことでした。

会の中では、同窓生の子供の進路について話題が集中しました。高校教員の同窓生との連携を高めること、同窓生の子供が工大に進学し、またその子供が工大に進学するというサイクルが今後大切であり、その為にも、同窓生の帰属意識を高める働きや、同窓生同士の交流も大切であるとの話し合いが交わされ、大変有意義な会となりました。

最後に、同窓会青森支部の 黄金崎さんより、参加者及び 当会の更なる発展を願い、一 本締めで終了いたしました。



支部活動報告 (新潟県支部)

中越沖地震に関してお礼

新潟県支部 会長

篠川 怕(ささがわ ゆみはる)氏

1948年 新潟市出身 1973年 土木工学科卒(大沼研) 現 在 新潟市水道局勤務・在局 33 年

7月16日(海の日)午前 10時13分頃、新潟県柏崎を 中心とした震度6強の地震が 発生いたしました。地震発生 当時、報道で皆様もビックリ されたと思いますが、柏崎刈 羽原子力発電所の火災映像、 国道の崩落、JR鉄道の不通 等3年前の中越地震に引き続 き震災に見舞われました。

新潟市でも震度4の揺れが あり地震直後、水道局に集合 し新潟市内の水道被害調査を 行っている中、柏崎市ガス水 道局から応急給水の要請を受 け、給水車の段取り。17日 朝からは水道施設の復旧支援 となり8月4日まで復旧作業 で現地そして新潟で対応しま した。

今回の水道復旧作業をして いる中で、これまでの震災(わ れわれが支援をした阪神淡路 大震災・中越地震)による水

新英典中継沖地震における水道交響復長状況 ******* ***************** *** 17 所 ・ 1 日本名間及り開発を記述者を認定者 ・ 1 日本名間及り 1 日本名間直接を記載しまれておりまでは実施してます。 ・ 1 日本名間を全体的大学工程を対象である。 ・ 1 日本名間を全体的大学工程を対象です。(AMPO CEDESの主体機 には、AMPADESSE (4.0)、またものではなり、サイナリアの発展(4.0) 加速 はは、AMPADESSE (4.0)、またものではなり、サイナリアの発展(4.0) 加速 はは、AMPADESSE (4.0)、またものではなり、ではサイナに対象にある。 17 円 100 日本日間では、大学工程を対象による。 17 円 100 日本日間では、大学工程を対象による。 5 M # 15 UT | 10 (***) A. (***) *** FINTON**

3 M # 15 UT | 10 (***) A. (***) *** FINTON**

3 M # 15 UT | 10 (***) A. (***) *** FINTON**

3 M # 15 UT | 10 (***) A. (***) *** FINTON**

3 M # 15 UT | 10 (***) A. (***) *** FINTON**

3 M # 15 UT | 10 (***) A. (***) *** FINTON**

4 M # 15 UT | 10 (***) A. (***) *** FINTON**

4 M # 15 UT | 10 (***) A. (***) *** FINTON**

4 M # 15 UT | 10 (***) A. (**) A. (***) DERRO (ERRO) 等である。日本大学会に、マロルでは、マロルでは、日本社会に、日本大学会に、日本大学会に、マロルでは、マロルでは、マロルでは、日本大学会に、日本大学会に、日本大学会に、「アー・アを発生する。」「アー・アを発生者で 支払が利当する。 ・新典をお取出に従来席を報告課券する。 ****** ELECTION OF * X 4 X 8 * 8 9.7 X 8 ***** (NI SAN)

道管被害と、状況が異なり、 大口径管での被害が想定より 多く、通水計画に支障をきた しました(全国ニュースで話 題になったリケン工場への優 先給水)。この事は、今後究 明していかなければならない と思っています。

中越沖地震発生から、1ヶ 月が過ぎ仮設住宅への入居も 開始され始めました。水道、 電気、電話は復旧しました がガスは8月末の復旧を目指 し、下水はこれからという状 況です。

工大卒業生で被害を受けた かともおられます。

全国各地からの温かい激 励・励ましありがとうござい ました。これから復興へと向 かって行くなか、原子力発電 所の風評被害等の影響もあり ますが、ぜひガンバッテいる 新潟にお越しください。

E 2 A CHILD の電影学と考察の発送的 「注意知的者・経過になってにて有35月ライの。(アル35日共産の第で決定、単直をあめる) 終末日数:開発は上に関わり多く、で有限である日数とする。(エキ34日来表) 2をASEの作品(アルス II 22 (中年内) 日 の か 年 DECEMBER OF STREET STREET プス 18 日の他調査生ととに利用された確立が企業ができなくなっていたお話は、地震変化は高 18 日本へ、一部の他別判職な事業を終ま、別の中の主張になって、本語による初本が可能な状況と考えるとしておきましたがで、必要性料率は17 月1 日本も一て終了しました。 BUTTARRYTHERIN WATERWAYS AND THE

【山形県支部設立準備会】 山形県支部設立に向けての想い

東北工業大学ライフサポートセクション マネージャ・

谷口 正昭 (たにぐちまさあき) 氏

私は、東北工業大学後援会 の山形県支部を担当している ことから、山形のこれまでの 状況をお知らせしつつ、山形 県支部同窓会の必要性を述べ させて頂くことになりました。 併せて、日ごろは同窓会と後 援会とのより一層の有機的な 連携が必要なことから、幾度 となく交流を持つ機会を頂く など同窓会に対し厚く御礼を 申し上げます。

後援会活動の主事業は、本 学教員と在学生の父母との懇 談を通し、個々の学生や父母 が抱える諸問題の解決や実社 会に役立つ人づくりを行うこ とが主目的になります。父母 の中には、本学の卒業生の方 もこの頃はよく見受けられま す。そのような卒業生の方と のやり取りの中では「山形県 内に卒業生の情報交換をする 機会を設けたい」との声も聞 かれます。

ちなみに、同窓会名簿の地 域別索引を見ますと約1.000 名の卒業生の方々が山形県内 に居られます。これらの方々 が日々の情報交換を行うこと になりますと、新たなビジネ スチャンスになることは確か なところといえますし、また 本学にとっても在学生の就職 支援や入学志願者増等も視野 に入れた新たな展開が可能に

なるのではないかとも思われ ます。

ただ、同窓会の役員の方々 から聞くところによりますと、 支部設立の課題としては、山 形の歴史的・文化的な風土か らか3つのエリア(庄内・村山・ 置賜) を如何に繋ぐかという ことだそうです。確かに山形 は歴史的な背景を強く引き継 いでいる地域エリアと、後援 会の仕事を行っていても強く 感じています。しかしながら 異文化を繋ぐことも新たな地 域デザインともいえます。

何れにせよ、私個人として も何らかの繋ぐアクションを 起こしたいと思っております が、山形に在籍する同窓会会 員の皆様はもちろんのこと、 同窓会全体と大学がより強い 絆になりますことを強く願っ ております。





平成 19 年度父母懇談会 (山形会場)

25

東北工業大学同窓会 第 23 回定時総会のご案内

今回は、新しく完成した大学キャンパスの見学を兼ね、母校での開催です。当日は東北工業大学の「工大祭」、および「ミニオープンキャンパス」も開催されておりますので、ぜひご家族づれでお越し下さい。

懇親会には、教職員や元教職員の方々にもご案内いたしております。 同級生、研究室やクラブ活動の同窓生等お誘い合わせの上、ご参加い ただきますようご案内申し上げます。

開催日時:平成19年10月20日(土)

定時総会 / 14:45~15:15 懇親会 / 15:30~17:30

会場:東北工業大学香澄町キャンパス

新 1 号館 133 号教室 / 4 号館食堂

(仙台市太白区八木山香澄町 35番1号)

議題: ①平成 18 年度事業報告②平成 18 年度決算報告③平成 18 年度監査報告 ④平成 19 年度事業計画⑤平成 19 年度予算案⑥その他

懇親会・参加費無料!

総会・懇親会参加申込締切/10月15日(月)(同封の出欠ハガキでお申し込みください)

※懇親会は、大学の規定によりお酒やビール等のアルコール類は提供できません のでご了承ください。また、ご来場の際は公共交通機関をご利用くださいますよ うお願いいたします。

卒業された皆様へ

東北工業大学同窓会 会費未納の方へ

同窓会会費は会員間のネットワーク化事業、在学生への支援、支部活動の推進、本 学および本学後援会との共同事業等を進めるために有効に活用しております。つ きましては、同窓会会費未納の方は、別紙郵便振替通知書で、早急に納入いただき ますようお願い申しあげます。

●終身会費 20,000円

(5,000 円 × 4回・10,000 円 × 2回の分割納入方法もございます)

●郵便振替口座

02280-5-22263 東北工業大学同窓会

※すでに納入済の会員には、郵便振替通知書は同封しておりません。 本会運営の趣旨をご理解の上、この通知をご御容赦ください。

同窓会・後援会事務局スタッフ、山田智美さんのご紹介

前任の高橋より業務を引き継ぎ、今年4月から同窓会と後援会の事務 局を担当することとなりました。両会長をはじめ、皆様にご指導をいた だきながら頑張っていきたいと思います。

平成20年には新学部が設立され、東北工業大学が新しく生まれ変わります。大学と同窓会と後援会とがさらなる連携をとり、より良い大学創りに携わっていけるよう、努めて参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

山田 智美

発 行:東北工業大学同窓会

事務局:東北工業大学キャリアサポート課内 〒 982-8577 仙台市太白区八木山香澄町 35-1 TEL.022-305-3336 FAX.022-305-3337 URL.http://www2.odn.ne.jp/~aan98460/